

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700261
法人名	医療法人 浦岡医院
事業所名	グループホーム やすらぎの家
所在地	大洲市西大洲甲525番地
自己評価作成日	平成22年 1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 2 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯に建てられており、平屋建てで木材を多く使い温かみがあり、玄関のドアも開け放ち開放的にしている。医療法人浦岡医院が運営しており毎週医師、看護師が来られ利用者の健康状態を把握している。健康面で不安を抱える方も安心して過ごして頂ける環境にある。職員は利用者の思いやペースを尊重しながら、日々の暮らしや楽しみごとをゆったり支援するよう心がけている。地域の盆踊りや、敬老会などに参加し、地元の幼稚園児や小学生と行き来する機会があり、また中学生の福祉体験実習も受入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは木造の平屋で、玄関や居間、居室も落ち着いた空間づくりがされている。管理者及び職員は理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えており、利用者は自分のペースで自由に過ごしている。ユニット間も自由に行き来でき、利用者及び職員はユニットを超えて顔馴染みになっている。協力医療機関と24時間体制の医療連携が確保され、緊急時はすぐに対応できるようになっており、利用者は健康面でも安心して暮らしている。また、地域の幼稚園児や小・中学生と交流したり、地域行事に参加する等、地域との交流も深まっている。食事は利用者の楽しみのひとつであり、管理栄養士が栄養バランスにも配慮した献立を作成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム やすらぎの家

(ユニット名) A 棟

記入者(管理者)
氏名 井上 博子

評価完了日 平成22年 1月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づいてミーティングや申し送り時に話し合い、具体的なケアについて意見統一を図っている。</p> <p>(外部評価) 約2年前に利用者本位に考えて職員で話し合った具体的な言葉を、ホームの理念としている。管理者及び職員はミーティング等でも理念について話し合って共有を図り、利用者の日々の生活を支えている。スタッフルームの見える所に利用者の書いた理念を掲示している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の盆踊り、敬老会、奉仕活動に参加している。また、地域の幼稚園、小学校との交流会、中学生の福祉体験学習等の受け入れもしている。</p> <p>(外部評価) 自治会には入っていないが、地域の掃除等には参加している。地域の行事(敬老会、夏祭り、虫祭り等)にも声をかけてもらって参加している。地域の幼稚園や小学校との交流もあり、行事に参加している。中学生の福祉体験学習を受け入れたり、芸能ボランティアや飛び入りのボランティアも受け入れている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 年2回広報を作り、地区長さんに回覧で回して頂き、やすらぎの家でどんなことをしているか知ってもらうようにしている。また、地域の方からの相談をいつでも受入れるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で入居者の状況や、今取り組んでいる事などを報告したり、話し合い意見や助言を頂いている。委員の方に議事録を郵送している。	
			(外部評価) 会議は利用者や家族、市職員、区長、公民館長、小学校長、他のグループホームの管理者等、多方面からの参加を得て開催している。利用者やホームの詳しい状況報告や活動報告を行い、意見・情報交換をしている。職員の参加はないが、会議録を掲示して内容を全員に周知している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 大洲市の開催する会議、研修に参加している。又、地域包括支援センターと交流を図り、ケアの質の向上に努めている。	
			(外部評価) 市の開催する研修会や会議に出席している。介護相談員を受け入れ、利用者の声を聞いてもらっている。市担当者とは十分連携を図っており、相談しやすい関係がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ベットの柵は最小限必要などところのみ使用している。又、玄関は自由に出入り出来るように開放している。	
			(外部評価) 身体拘束に関するマニュアルを作成し、管理者及び職員はミーティング等で勉強会を行い、身体拘束のないケアの実践に努めている。玄関は、出入りがセンサーでわかるようになっているが、いつも開放した状態で、自由に出入りできる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成、職員に周知しミーティング内で学ぶ機会を持ち、見過ごされることがないように防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修に参加し、他の職員にも周知できるようにミーティング時に研修内容を発表し、必要性を理解できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結、解約、改定等の際は不安な点などを尋ね、理解、納得をして頂くよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行ったり、介護相談員さんに毎月来て頂き、意見や要望を聞く機会をもち、運営に反映させている。	
			(外部評価) 家族の訪問時には利用者の状況を報告し、話を聞くよう心がけている。遠方の家族には介護計画の見直し時や、利用者の状況に応じて電話等で連絡しており、その時に意見を聞いている。また、運営推進会議でも家族から意見を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティング等に理事長に出席して頂き、職員の意見などを聞く機会を設けたり、管理者はその都度提案などを聞き反映させている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、申し送りやスタッフミーティング、ケアプラン会議等で職員に意見を聞いたり、日頃から職員と話しやすい関係づくりに努めている。ミーティング等で法人理事長と話す機会も設けている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員個々の実績や勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境、条件の整備、健康管理に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 就業の際には、理事長のオリエンテーションまた一人ひとりのケアの力量を把握し、内外の研修を受ける機会を確保し、職員を育てるよう努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会や大洲市が開催する連絡会に参加する機会をつくり、相互訪問などの活動を通じサービスの質の向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者本人の話を傾聴し、安心を確保できるよう信頼関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで信頼関係を得るように心がけ、求めていることに応えるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人や家族の思い、状況を確認し、アセスメント調査を行い、課題を明らかにしてケアサービスに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんの思いや苦しみ、不安、喜びなどを知ることにも努め、暮らしの中で分かち合い共に生活する関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪された時に日々の暮らしの出来事や気付いたことをご家族に話し、本人を支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある人が面会に来られやすい雰囲気を作っている。また、ご家族や友人、知人の方に行事に参加出来るよう声かけしている。 (外部評価) 利用者には地元出身者もおおり、近所の方や友人・知人が訪ねて来ている。すぐ近くの病院の売店に買い物に行ったり、馴染みの美容院やスーパーに行くこともある。他のグループホームとの交流もあり、新しい馴染みの関係もできている。また、パン屋の移動販売で好きなものを選ぶことも利用者の楽しみのひとつとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は体調が悪くない以外は食堂に集まり、色々なレクリエーションをしたり、テレビを見たりして利用者さん同士で関わりをもっと頂くようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、必要に応じ連絡を取り合い相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの気持ちを大切に声かけをし、優しい気持ちで接する。のんびりと生活出来るよう援助する。 (外部評価) 職員は、一人ひとりの思いや希望等を把握するためにじっくりと話を聞いている。思いを把握するのが困難な利用者に対しては、体調や表情、行動等から察したり、日頃の会話から思いを汲み取るよう努めている。また、ちょっとした変化も見逃さないよう気をつけており、連絡ノートに記録し、申し送りで伝えて職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人一人のカルテを見て、昔の生活の話を聞き馴染みの暮らしが継続できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) いつもと利用者さんの行動や顔色が違ってないか、気を付けて見守るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人がより良く暮らす為に、本人の希望や家族の要望を来訪時や電話で聞き、スタッフの要望も踏まえて毎月1回のカンファレンスでそれぞれの意見・アイデアを反映し、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 本人及び家族の希望や、担当職員の意見も聞き、ケアプラン会議で話し合っって介護計画を作成している。6か月毎に見直し・評価を行っている。利用者の状況に変化があればその都度話し合い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 健康チェック表を作り、食事、水分、排泄等の状況を把握したり、何をされていたか行動、言動、表情等を記録している。また、病院に受診した場合は色分けして記録し、計画の見直しをしている。状態に応じて、個々で健康チェックを行ったりしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院介助や利用者の要望に応じて、買い物や物療などの外出支援やサービスの多機能化に柔軟に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の公民館や小学校の行事、同じ地域の施設の方との交流会などに参加し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 医療連携体制をとっているため、緊急時などに連絡が取れるようにしている。毎週木曜日に医師、看護師に来て頂き、健康管理をしている。また、毎年の健康診断と毎月定期の検査などを行っている。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が母体法人の医療機関をかかりつけ医としているが、それ以外の場合にも適切に支援している。協力医療機関から週1回の往診があり、それ以外でも必要時や緊急時には24時間対応できる体制となっている。毎日、利用者の状態を協力医療機関に報告しており、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 体調管理をしている中で異変に気付いた時には、看護師に相談し、適切な受診が受けられるように連携をとっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院した際には、安心して治療できるよう病院関係者に情報提供を行ったりし、情報交換や相談に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に本人、ご家族に看取りの指針を説明し、同意書に記入して頂いている。また、重度化した場合は主治医や本人ご家族と話し合いをし、こまめに連絡を取り合いながらチームで取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を定め、利用者及び家族に説明して同意を得ており、利用者の状況変化に応じて話し合いを繰り返している。看取りの経験もあり、看取りを希望する利用者や家族が多いため、ホームとしても看取りの体制を整えており、できる限りの支援に取り組んでいる。</p>	<p>看取りの経験もあり、緊急時は協力医療機関の支援を得られる体制が整っているが、ここ数年で利用者の身体機能の低下がみられ、また夜勤は1人体制でもあるため、安心して支援できるよう職員の研修を継続して行うことを望みたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えマニュアルを作成している。また、消防署職員による応急処置の指導をして頂いたり、研修を受けたりし実践力を身に付けるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを作成し、毎年2回消防署職員に来て頂き、避難訓練を行っている。地域の防災訓練も参加出来るよう公民館長と話し合いを進めている。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施している。地域の協力体制はまだ得られていないが、運営推進会議等を通じて地域の自主防災組織にも参加したい旨を伝えている。	災害時は職員の誘導だけでは限界があり、地域の協力は大切であるため、地域の自主防災組織や近隣住民にも働きかけて協力体制を築き、訓練を一緒に行う等の取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自分も言われたら嫌な事は言わないよう、しないよう一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや対応をするよう心がけている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに対する言葉かけにも配慮がみられ、トイレの誘導等も自然に行われている。職員は自分が言われて嫌なことは言わないように心がけており、職員同士でも注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活で利用者が望まれていることを出来るだけ叶えるようにしている。本人の意思決定を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを大切にし、ゆったりとした時間を過ごして頂くよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 以前されていたことが継続できるよう、マニキュアやお化粧品などしたり、その日着る服を選んだりして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者が食べたい物を献立に入れたり、料理の盛り付けや、後片付けなど出来ることを無理のないように一緒にして頂いている。 (外部評価) 利用者には下ごしらえや食器拭き等、できることをしてもらっている。利用者のペースに合わせることを原則としており、食事時間も時間にこだわらず支援している。献立は管理栄養士にお願いしており、病気等で配慮が必要な利用者にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量が少ない方には食べそうな物を時間をずらして食べてもらったり、水分量が少ない方にはお茶ゼリーを勧めたりして一日を通じて確保出来るよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内の清潔が保てるよう本人に合った口腔ケアを行っている。また、義歯は定期的にポリドントにつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) なるべく尿取りパットや紙パンツを使用しないように、声かけをしてトイレで排泄できるように心がけている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、時間を見て誘導している。夜間は紙パンツを使う利用者も、昼間は布パンツで過ごせるようにしている。夜間は、声をかけて起きてもらって誘導・起こさず様子を見るなど、一人ひとりの状態に応じて個別に対応している。オムツ使用でも排便時にはトイレで排泄できるよう誘導することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を摂ってもらうよう声かけや介助を行ったり、便の出にくい方には牛乳やヨーグルトなどの乳製品や食物繊維などをとってもらうようにしている。朝の清掃時に掃除を手伝ってもらったりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調や気分に合わせて、入浴を実施している。訴えなどに合わせて楽しんで入浴できるよう工夫をしている。	
			(外部評価) 入浴の希望は全員に聞いている。今の時期は入りたがらない方もいるが、時間をずらして声をかけるなど個別に対応している。また、入浴中にも歌をうたったり昔の話を聞くなどして、一対一で会話を楽しみながらゆったりと入浴してもらっている。ユニット毎に1日おきに沸かしているが、ユニット関係なく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり体調などを考慮して、無理のいかないようにソファや自室で休んで頂くように声かけや目配りなどを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 頓服などのお薬は別に保管し、通常服用されているお薬も服薬ミスのないように確認している。また、処方箋が確認できるよう日々の記録に綴じ、どのようなお薬を服用されているかなど理解し、症状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 退屈しないよう、残された機能を少しでも伸ばせるよう、支援を心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気がよく人数的に余裕があれば、気分転換に散歩等行くように努めている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて散歩・買い物・寄席・喫茶店等に出かけている。幼稚園児と一緒に芋掘り等畑の収穫を楽しんだり、家族と一緒に墓参りや法事等に出かけたりしている。また、他のグループホームへの訪問等にも新たに取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じ、お金を所持して頂いたり、買い物を楽しんだりして頂いたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 母の日などにお花が届けば、お礼の電話をしたりお手紙を書いたり大切な人との繋がりを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間には畳の間、テレビなどを配置し、行事の写真、利用者の作品を飾り、心地よく過ごせる空間になっている。	
			(外部評価) 玄関は開放しており、自由に出入りできる。玄関の前にあるスタッフルームの戸は常に開けているので、利用者もユニット間を自由に行き来して交流している。居間は季節の飾り付け等工夫しており、畳にはこたつが置かれ、横になってくつろげるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファ、テレビ、カセットを置き、好きな場所で仲良し同士が過ごしたり、一人になりたい時には、居室に戻ったりし過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使い慣れた家具、日用品、布団などを使って頂き、安心して過ごせる場所になっている。	
			(外部評価) 居室にはベッド及び家具は備えつけてあるが、その他は利用者の使い慣れた馴染みの物を家庭から持ち込んでいる。壁には好みの飾り付けがされており、ドアの表札も一人ひとり違い、その方にあった個性的な部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの分かることや、力を活かして見守り支援し、必要以上の援助はしないように心がけている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700261
法人名	医療法人 浦岡医院
事業所名	グループホームやすらぎの家
所在地	大洲市西大洲甲525番地
自己評価作成日	平成 22年 1月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 2月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯に建てられており、平屋建てで木材を多く使い温かみがあり、玄関のドアも開け放ち開放的にしている。医療法人浦岡医院が運営しており毎週医師、看護師が来られ利用者の健康状態を把握している。健康面で不安を抱える方も安心して過ごして頂ける環境にある。職員は利用者の思いやペースを尊重しながら、日々の暮らしや楽しみごとをゆったり支援するよう心がけている。地域の盆踊りや、敬老会などに参加し、地元の幼稚園や小学生と行き来する機会があり、また中学生の福祉体験実習も受入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは木造の平屋で、玄関や居間、居室も落ち着いた空間づくりがされている。管理者及び職員は理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えており、利用者は自分のペースで自由に過ごしている。ユニット間も自由に行き来でき、利用者及び職員はユニットを超えて顔馴染みになっている。協力医療機関と24時間体制の医療連携が確保され、緊急時はすぐに対応できるようになっており、利用者は健康面でも安心して暮らしている。また、地域の幼稚園児や小・中学生と交流したり、地域行事に参加する等、地域との交流も深まっている。食事は利用者の楽しみのひとつであり、管理栄養士が栄養バランスにも配慮した献立を作成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム やすらぎの家

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)
氏名 井上 博子

評価完了日 平成22年 1月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) A、B各棟スタッフルームに利用者を書いて頂いた理念、ケア理念を掲示し、理念を共有し実践につなげるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 約2年前に利用者本位に考えて職員で話し合った具体的な言葉を、ホームの理念としている。管理者及び職員はミーティング等でも理念について話し合っ共有を図り、利用者の日々の生活を支えている。スタッフルームの見える所に利用者の書いた理念を掲示している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の幼稚園、小学校と交流会を行ったり、中学校の福祉体験実習の受け入れをしたりし、日常的に交流している。</p> <p>(外部評価) 自治会には入っていないが、地域の掃除等には参加している。地域の行事（敬老会、夏祭り、蛍祭り等）にも声をかけてもらって参加している。地域の幼稚園や小学校との交流もあり、行事に参加している。中学生の福祉体験学習を受け入れたり、芸能ボランティアや飛び入りのボランティアも受け入れている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に作成している広報を公民館に置かせて頂いたり、地域の回覧板で回して頂いたりしている。また、電話などで相談を受けたりしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の状況報 告、日々の活動の報告や話し合いを行い、意見、助言 などを頂き、サービスの質の向上に活かしている。	
			(外部評価) 会議は利用者や家族、市職員、区長、公民館長、小学 校長、他のグループホームの管理者等、多方面からの 参加を得て開催している。利用者やホームの詳しい状 況報告や活動報告を行い、意見・情報交換をしてい る。職員の参加はないが、会議録を掲示して内容を全 員に周知している。	会議参加者の意見や情報を知り、サービスの質の向上 につなげていくために、職員も会議に参加できるよう な工夫について検討を望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 大洲市が開催する連絡会に参加したり、ケアプランな どについて直接助言を頂いたりし、日頃から連携を密 に取っている。	
			(外部評価) 市の開催する研修会や会議に出席している。介護相談 員を受け入れ、利用者の声を聞いてもらっている。市 担当者とは十分連携を図っており、相談しやすい関係 がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成し、職員に禁止の対象とな る具体的な行為を理解している。また、日中は玄関を 開放したりし、身体拘束をしないケアに取り組んでい る。	
			(外部評価) 身体拘束に関するマニュアルを作成し、管理者及び職 員はミーティング等で勉強会を行い、身体拘束のない ケアの実践に努めている。玄関は、出入りがセンサー でわかるようになってきているが、いつも開放した状態 で、自由に出入りできる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成、職員に周知しミーティング内で学ぶ機会を持ち、見過ごされることがないように防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修会に参加し、ミーティング内で学ぶ機会を持ち、必要があれば活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結、解約、改定等の際は不安な点などを尋ね、理解、納得をして頂くよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行ったり、介護相談員に毎月来て頂き、意見や要望を聞く機会を持ち、運営に反映させている。 (外部評価) 家族の訪問時には利用者の状況を報告し、話を聞くよう心がけている。遠方の家族には介護計画の見直し時や、利用者の状況に応じて電話等で連絡しており、その時に意見を聞いている。また、運営推進会議でも家族から意見を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティングなどに理事長に出席して頂き、職員の意見などを聞く機会を設けたり、管理者はその都度、提案などを聞き反映させている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、申し送りやスタッフミーティング、ケアプラン会議等で職員に意見を聞いたり、日頃から職員と話しやすい関係づくりに努めている。ミーティング等で法人理事長と話す機会も設けている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員個々の実績勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境、条件の整備、健康管理に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 就業の際には理事長のオリエンテーション、また一人ひとりのケアの力量を把握し、内外の研修を受ける機会を確保し、職員を育てるよう努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会や、大洲市が開催する連絡会に参加する機会をつくり相互訪問などの活動を通じ、サービスの質の向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者本人の話を傾聴し、安心を確保できるよう信頼関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの経緯や、ご家族の苦労をゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで信頼関係を得るよう心がけ、要望に応えるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い、情報を集めながら本人、家族の意向に基づいた支援を見極め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんの思いをできるだけ理解できるよう努めながら暮らしの中で、不安、苦しみ、喜び等を分かち合い共に支えあう関係作りが出来るよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、日々の出来事や気付いた事を一緒に会話したり、行事などに家族の参加を通じ共に本人を支えらるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が面会しやすい雰囲気作りに気をつけている。また、家族や知人、友人の方への行事の参加をお願いしている。 (外部評価) 利用者には地元出身者もおり、近所の方や友人・知人が訪ねて来ている。すぐ近くの病院の売店に買い物に行ったり、馴染みの美容院やスーパーに行くこともある。他のグループホームとの交流もあり、新しい馴染みの関係もできている。また、パン屋の移動販売で好きなものを選ぶことも利用者の楽しみのひとつとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が、個性や関係性を理解して強者や弱者が出来ないよう対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された後も必要な場合は、手紙、電話等で交流を持っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、会話や行動、表情等から本人の意向の把握に努めている。困難な場合は、家族など情報を得るようにしている。 (外部評価) 職員は、一人ひとりの思いや希望等を把握するためにじっくりと話を聞いている。思いを把握するのが困難な利用者に対しては、体調や表情、行動等から察したり、日頃の会話から思いを汲み取るよう努めている。また、ちょっとした変化も見逃さないよう気をつけており、連絡ノートに記録し、申し送りで伝えて職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター式を一部取り入れ、本人、家族などより様々な角度から把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) いつもと利用者さんの行動や顔色が違っていないか、気を付けて見守るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者がより良く暮らすために、本人の希望や、ご家族の要望を来訪時や電話で聞き、またスタッフの要望も聞き、毎月1回のカンファレンスを行ってきめ細かなケアプランを作成している。	
			(外部評価) 本人及び家族の希望や、担当職員の意見も聞き、ケアプラン会議で話し合っって介護計画を作成している。6か月毎に見直し・評価を行っている。利用者の状況に変化があればその都度話し合い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 健康チェック表を作り、食事、水分、排泄等状況を把握したり、何をされたか行動、言動、表情等を記録している。また、病院に受診した場合は色分けして記録し、計画の見直しをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人のペース、家族の状況に合わせた対応をし、既存のサービスに捉われない柔軟な支援や、サービスに取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 個人の暮らしを支えている社会資源を把握し、本人の出来る事を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は、本人及び家族の希望で納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受 けられるよう支援している。 (外部評価) ほとんどの利用者が母体法人の医療機関をかかりつけ 医としているが、それ以外の場合にも適切に支援して いる。協力医療機関から週1回の往診があり、それ以 外でも必要時や緊急時には24時間対応できる体制と なっている。毎日、利用者の状態を協力医療機関に報 告しており、適切な医療を受けられるよう支援してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気付 いたことを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や、看護を受け られるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した際、安心して治療出来るように、ま た出来るだけ早期に退院出来るように、病院関係者との 情報交換や相談に努めている。病院関係者との関係 づくりを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階 から本人、家族と話し合いを行い、事業所で出来る事 を十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる。 (外部評価) 看取りに関する指針を定め、利用者及び家族に説明し て同意を得ており、利用者の状況変化に応じて話し合 いを繰り返している。看取りの経験もあり、看取りを 希望する利用者や家族が多いため、ホームとしても看 取りの体制を整えており、できる限りの支援に取り組 んでいる。	看取りの経験もあり、緊急時は協力医療機関の支援を 得られる体制が整っているが、ここ数年で利用者の身 体機能の低下がみられ、また夜勤は1人体制でもある ため、安心して支援できるよう職員の研修を継続して 行うことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて、研修を受講したり、医師、看護師に連絡し指導を受け対応している。また、消防署の方からADE、人工呼吸、心臓マッサージの指導を受講し身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を行い、消火、避難方法を身につけ、2ヶ月に1回の運営推進会議にて地域の方との交流を持ち、地域の防災訓練も参加出来るよう話し合いを進めている。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施している。地域の協力体制はまだ得られていないが、運営推進会議等を通じて地域の自主防災組織にも参加したい旨を伝えている。	災害時は職員の誘導だけでは限界があり、地域の協力は大切であるため、地域の自主防災組織や近隣住民にも働きかけて協力体制を築き、訓練を一緒に行う等の取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように、声かけや対応に気をつけ入居者の方のプライドを損ねないようにしている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに対する言葉かけにも配慮がみられ、トイレの誘導等も自然に行われている。職員は自分が言われて嫌なことは言わないように心がけており、職員同士でも注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の方が、日常生活の中で本人が希望を表したり、自己決定が出来るよう声かけ、対応に気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて、散歩、買い物、喫茶店、ドライブ等希望にそって支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の生活習慣に合わせた支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、片付け等出来る事は手伝って頂き、同じテーブルで楽しく食事出来るよう、テレビは消し音楽などを流している。	
			(外部評価) 利用者には下ごしらえや食器拭き等、できることをしてもらっている。利用者のペースに合わせることを原則としており、食事時間も時間にこだわらず支援している。献立は管理栄養士にお願いしており、病気等で配慮が必要な利用者にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士さんに、献立を作ってもらっている。また、一人ひとりの食事量、水分量を健康チェックに記入し、一日を通じて確保できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間を見ながら、声かけの必要な方には声かけしトイレ誘導を行っている。入居者の方も自らトイレに行きたいと主張されることもある。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、時間を見て誘導している。夜間は紙パンツを使う利用者も、昼間は布パンツで過ごせるようにしている。夜間は、声をかけて起きてもらって誘導・起こさず様子を見るなど、一人ひとりの状態に応じて個別に対応している。オムツ使用でも排便時にはトイレで排泄できるように誘導することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取の難しい入居者の方にはお茶をゼリーにしたり、ポカリスエットをゼリーにしたりと工夫して必要に応じて増やしたり、食物繊維や乳製品を摂取して頂いたりしている。また、レクリエーションをしたり散歩に行ったりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人が入浴を希望しない時は無理に勧めないようにしている。体調に応じて、中止にしたり清拭にしたりしている。	
			(外部評価) 入浴の希望は全員に聞いている。今の時期は入りたがらない方もいるが、時間をずらして声をかけるなど個別に対応している。また、入浴中にも歌をうたったり昔の話を聞くなどして、一対一で会話を楽しみながらゆったりと入浴してもらっている。ユニット毎に1日おきに沸かしているが、ユニット関係なく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) イスに長時間座ることのないように、ソファに移動したり、こたつで横になってもらったり、体調がすぐれない方は、自室で横になって休んでもらったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの用法や用量について理解し、名前と顔を確認した上で正しく服薬して頂くよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) いつでも散歩や気晴らしが出来るように玄関を開放している。一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと等の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、一人ひとりの体調に合わせて散歩、ドライブ等に出かけている。また、家族、地域の方の協力を得て出かけられるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて散歩・買い物・寄席・喫茶店等に出かけている。幼稚園児と一緒に芋掘り等畑の収穫を楽しんだり、家族と一緒に墓参りや法事等に出かけたりしている。また、他のグループホームへの訪問等にも新たに取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人のレベルに応じたお金を所持してもらっている。買い物に出かけた際に、お金を持つ機会を持ち使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族からの贈り物が届いたり。大切な人からの手紙が届けば必要に応じて、読んで上げたり代筆したりしている。また、本人が電話希望されればやり取りが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関に花を飾ったり、居間にコタツを置いてゆっくりくつろいで頂いている。また、天窓を設置して外からの光が入るようにして快適に過ごしてもらえよう室温も調整している。</p> <p>(外部評価) 玄関は開放しており、自由に出入りできる。玄関の前にあるスタッフルームの戸は常に開けているので、利用者もユニット間を自由に行き来して交流している。居間は季節の飾り付け等工夫しており、畳にはこたつが置かれ、横になってくつろげるスペースとなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 全室個室になっていて個々のプライバシーが守られている。また、仲の良い入居者さんがテーブルを囲んで談笑して過ごしたり、ソファに座ってくつろがれている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に本人さんが使い慣れた小物を置いたり、アルバムや花を飾ったりして安して過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッド及び家具は備えつけてあるが、その他は利用者の使い慣れた馴染みの物を家庭から持ち込んでいる。壁には好みの飾り付けがされており、ドアの表札も一人ひとり違い、その方にあった個性的な部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) スロープや手すりがあることで一人で庭に行かれている。また、室内も手すりを設置しているのでも見守りの中一人自由に歩かされている。洗面台が上下する事で入居者さんに合わせた高さになるようになっている。</p>	